

授業科目名	現代の哲学			担当教員名	原 一樹	
科目区分		単位	配当年次	実施時期	曜日・時限	形態
教養教育科目	選択	2	1~4	春・秋学期	(春学期) 木・4	講義
					(秋学期) 木・2 金・3	
授業概要						
<p>「哲学」という言葉のそもそもの意味は、「知を愛する」です。「哲学」は「知識」でも「手段」でもなく、「考えること」それ自体を目的として実践される、一つの活動だと言えるでしょう。人が自分の生を支える根本的な事柄について考える時、そこに「哲学」は発生します。この講義は、受講生がそれぞれの「哲学」を始めるためのきっかけを与えることを目指し、様々な20世紀フランス哲学・思想を手がかりに、私達の生を支える根本諸概念について、考察していきます。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「哲学的」な問題群、問題の立て方とはいかなるものかについて、基礎的知識を身につける。 2. 特定の哲学的問題に対して、自分なりの見解を持ち議論を展開できる力を身につける。 						
授業方法(展開)						
<p>基本的には講義形式で進めますが、上記の目標に到達する為に、以下の方法を採用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業の最後に、授業内容についての質問・意見を収集。(次回の講義にそれらを反映。) 2. 適宜、担当者に課題を与え、文献要約や報告の役割を果たしてもらう。 3. セメスターの最後に、講義で扱う諸問題のいずれかについて<u>原稿用紙10枚以上</u>のレポートを作成すること。 						
関連科目・知識・スキル						
「心理学」、「現代日本社会事情」、「現代社会における法と政治」、「文化総合講座(宗教・思想)」						
成績評価						
受講態度30%、報告担当等30%、セメスター末レポート40%						
教科書・参考書など						
特に指定しませんが、授業初回にこの講義の参考文献の一覧表を配布します。						
履修上の注意事項						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に紹介する理論書や小説、映画・漫画等には、積極的に触れるようにしてほしいと思います。 ・講義中の質問・意見は歓迎しますが、他の受講生の妨げとなる行為(私語・携帯電話の使用等)は当然、禁止です。 						

授業の柱(単元)と授業スケジュール

授業の柱とスケジュールはおおよそ以下の通りです。受講生の興味関心や、講師と受講生、また受講生同士の意見のやり取りを踏まえ、授業の進行速度や取り扱う内容には変更が予想されます。

第1回 インTRODクシヨN (講義の狙い・進め方・成績評価等についての説明。受講生の持つ知識の確認。)

第2回～第8回 構造主義とは何か

- ・ ソシユール/言語学 ・ レヴィ=ストロース/人類学
- ・ ラカン/精神分析 ・ ロラン=バルト/記号論

第9回～第14回 構造主義以降の哲学

- ・ フーコー/知の考古学 ・ デリダ/脱構築
- ・ ドゥルーズ/差異の哲学

第15回 全体のまとめ

学生への一言

「わかりやすさ」・「コミュニケーション」・「スピード」が重視される現代社会において、「難解さ」や「孤独な思索」・「遅々とした歩み」などの言葉で形容されうる「哲学」という営みは、ある意味で絶えず劣勢に立たされているものなのかもしれません。しかしながら、「それがいかなる価値を持つものか学ぶ前には想像すらつかない何か」との出会いが、一人の人間を別の人間へと変容させうる可能性を秘めたものであるならば、「哲学」にはいかなる時代にも存在意義があるはずです。これまでの自分には全く縁もゆかりも無い、新しい世界の見方や哲学的叡智に出会いたいと思う学生諸君の受講を期待します。